パンフレット作成に没頭する児童

## 教育現場でも生かされる情報通信技術

# 新たな教育のカタチ

**昨年12月、政府は「GIGAスクール構想」を打ち出した。市でも来年度、生徒・児童に1人1台端末が配備される。子どもたちの教育は今後、どう変化していくのか。**

### 変化する教育現場 ICTの活用を推進する

「カチカチカチッ」

まだ授業が始まっていないのに、パソコンの電源を入れ作業を始める児童。御前崎小学校6年2組の授業で、修学旅行で得た学びや訪れた場所の魅力を伝えるパンフレット作成の授業にパソコン端末が使用された。文字の入力やインターネットから得た写真の挿入など、友達と相談しながらそれぞれが工夫し作業を進めていった。

2019年12月、文部科学省は「GIGAスクール構想」を打ち出した。これは、児童と生徒に1人1台パソコン端末を用意し、教育機関にも高速大容量の通信ネットワークを整備することで、子ども一人一人に合った学びを全国どの学校現場でも実現させるというものだ。

さらに、本年4月には各教科の目標や大まかな教育内容を定めた「学習指導要領」が改訂された。総則に「情報活用能力」が組み込まれ、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられた。小学校では、プログラミング教育が必修化され、論理的思考力「プログラミング的思考」を育むとしている。